

# 『失樂園』はどう読まれるのか

## - 中国における渡辺淳一文学の受容 -

于 桂 玲

(中国・黒竜江大学東語学院日本語学部)

### はじめに

1998年以來、「失樂園ブーム」に伴い、中国における渡辺文学の翻訳も盛んになり、2009年までに、約50作品が中国に紹介され、渡辺文学が中国において本格的に受容されるようになってきた。出版社の紹介にはよく「情愛の大師」、「現代男性の代弁者」という言葉が使われる。現代日本文学史上での渡辺の地位に関しては「大江健三郎、渡辺淳一、村上春樹が現代日本文学の三大家と言える。この三人が文学の消費性洪水が降りかかる下で始終厳粛文学の陣地を厳守してきた」<sup>(1)</sup>と述べられている。これに対して、日本側からは「渡辺淳一と村上春樹を一緒に論じることはできない……日本側から見ると、氏が書かれたのは風俗を主とするもので、捕えられたのがただ生活の表面だけなので、日本人はそれほど彼の作品を重視していない。」<sup>(2)</sup>という批判が出ている。

本論は中国と日本の中で生じた渡辺淳一文学に対する読書・評価の相違を中国における渡辺文学受容の社会的・文学的背景、中国人の「失樂園」に対する受け取り方の変容などという面から述べさせていきたい。

### 一、社会的背景

#### 1. 改革開放・経済発展に伴う恋愛・結婚・性に対する再認識

渡辺淳一小説が最初中国に登場した1980年代には、改革開放が既に始まっており、その経済的効果が次第に現れていた。しかし、前半期は農村

部に集中しており、都市での変化はそれほど著しくなく、まだ「需要を満たす消費時代」であった。80年代後半、特に1992年の鄧小平による「南巡講話」以降、「発展こそ基本原則」というスローガンが全国的に広がり、「経済発展」を目指す改革開放のスピードアップが著しくなってきた。同年、食糧価格の開放に伴い、計画経済を象徴する穀物配給券である「糧票」の流通が廃止されるに至り、中国は明らかに「金」さえあれば「物」を買うことのできる「欲求を満たす」消費時代に突入した。物質主義、つまり金銭を成功の基準とする傾向が顕著になってきたのだ。

また、経済の発展につれ競争が激しくなり、物質的な面においても精神的な面においても重圧を受ける人々が増えてきた。仕事に使われる時間が一段と多くなってきたことに加え、度々の出張、夜間学校の通学など、仕事以外の拘束が増加し、家族といっしょにいる時間が減っていくため、家族内交流の減少が次第に目立つようになった。その一方で、交際の拡大、レクリエーション施設の開放に伴う異性間交流の機会が増えてきた。統計学的考察によれば、「社会転型期」が来ると、必ず離婚率が上がるといわれている。建国後十年以来、三回の離婚ブームは、それぞれ1950年代(解放後)、1960年代中期より1970年代中期(文化大革命)、1990年代前半(改革開放)に発生している<sup>(3)</sup>、と言われている。そして改革開放以来、特に1980年に新しく修正された「婚姻法」は仲

(1) 赵爱华：《生存・死亡・性愛——从三位代表作家看当代日本文学走向》(『生存・死亡・性愛——三人の大家から見る現代日本文学の行方』)、《世界文化》2006年第4期。

(2) 島村輝：《值得中国注意的日本的近代文学研究》(『中国側が注意すべき日本近代文学研究』)、留学生新聞2003年7月15日。

(3) 《中国離婚率递增 性生活质量成为重要原因》(『中国における離婚率が次第に増え、セックステクニックは要因』)、東方网、2000.11.01。

たがい離婚の根拠と見なすことになったゆえに、離婚が前より容易になり、それ以来、離婚が異常視されなくなったのだ。データから見れば、中国では1990年に80万組の夫婦が離婚しているが、1999年に至ると、120.1万組に達する。しかも、2003年10月より実施された新しい「婚姻登録条例」が離婚の手続きを簡略化（当事者の職場の証明書が不要となり）したため、婚姻という「囲まれた城」を非常にやすくなったのだ。

七、八十年代、不倫関係者は「作風不正派」（生活態度がりっぱでない）という名目で、よく職場から警告や処罰され、同僚や知人から仲間はずれにされた。しかし、90年代に入ると、不倫関係者に対する呼び方も軽蔑した「破れ靴」からより客観的な「婚外恋」（即ち不倫）となってきた。1990年代後半に至ると、「愛人」、「二号さま」を持つことを「成功男子」の証として誇る傾向さえ生じている。2000年以来、ネットの発達・普及による「ネット友会見」「一夜情」も「婚外恋」に拍車をかけ、安定した家庭生活に危機をもたらしている。ネット専有名詞MBA（married but available）、俗語「不在乎天长地久，只在乎一朝拥有」（一生の縁より一朝の結びを選ぶ）、「外遇人人有，不露是高手」（愛人は誰でもいるが、隠し通す達人）、「家里红旗不倒，家外彩旗飘飘」（家では妻が倒れない赤旗，外では愛人が万国旗）更には、「妻交換クラブ」さえ登場し、現代都会人の倫理観の変様を示唆しているのだ。

## 2. 新時代における若者の恋愛・結婚観

現在20代の若者は、丁度1970年代末から80年代初頭の改革開放開始、即ち、「一人っ子政策」実施後に生まれ、祖父母・両親に可愛がられ、甘やかされながら育てられてきた。彼らは「社会転型期」に生まれ・育ち、少年時代から商業主義の荒波に流され、パソコン・テレビゲームに熱中し、大学卒業時期を迎えると、「不包分配」制度（90年代中期までは中国では政府が大学生を画一的に各求人職場に配属し、その制度を「包分配」と称

した）の洗礼を受けた。このことにより、現実に対する「空虚感」「喪失感」、未来に対する「不安」「不確定感」に包まれている。加えて、90年代前半までは連続して毎年10-14%のGDP二桁成長を記録していた経済は後半から急速にスピードダウンし、失業問題なども顕在化してきた。個人消費と民間投資は冷え込んでしまい、その「不安」が一層広がってきた。

このような社会変化を背景に、「婚外恋」「一夜情」が「空虚感」「不確定感」のはけ口として、1990年代以後、次第に理解・共感を得ようになってきた。映画・テレビドラマもこのような変化をよく反映している。1987年上映された映画「だれが第三者」（誰は第三者）では初めて、「不倫相手」（「誰が第三者」の主人公男女は不倫には陥らない）を正々堂々と登場させ、「夫に愛されていない妻と、愛されている不倫相手とを比べて一体誰が第三者か」と社会に向かって問いかけ、「愛情のない婚姻」に対する問題提起を投げかけた。その後、大きな反響を呼んだ映画「一声の溜息」（一声叹息，2000/王朔脚本，冯小刚監督）、テレビドラマ「手を取る」（牵手，1999）は皆不倫をテーマとしたものだが、愛人に理解・同情を示していたものの、何れも主人公は愛人と別れ、元の家族に戻るという結末だった。ところが、2003年、人気を博したテレビドラマ「中国式離婚」の脇役、劉東北の台詞では「婚姻法なんかでさ、はっきり規定すべきなのよ。結婚は三年限界っていうこと。うまく行けば、また三年間続けるが、行かなかつたら、もうお終いでいい」と言させたのだ。これは「80後」（1980年代生まれの若い人に対する呼び方）の代表的な結婚観であると言える。

## 二、文学的背景

### 1. 外国文学翻訳政策変更による翻訳文学の再興

中国における日本文学の翻訳・受容は80年代から盛んになり、作家に対する評価・選択も硬直化したイデオロギーの枠を超え、多面的になった。

最初に中国に紹介された渡辺作品は「光と影」(1984)である。1986年から1993年にかけて翻訳作品数は17点に上るが、医学小説か短編小説を主とした当時、日本で大流行した『化粧』(1981),『ひとひらの雪』(1982),『化身』(1985),『うたかた』(1990)などは全く翻訳されなかった。特に1993年から1997年までの四年間、管見の限り一冊も翻訳されていない。また、中国における村上春樹の翻訳に関しても、藤井省三教授の調査によると、「1986年以来ほぼ切れ目なく続いてきた村上作品翻訳」は1992年8月以後、1996年6月までの四年間、「途切れしまうのであった」<sup>(4)</sup>。その原因としては、恐らく1989年より1992年春にかけて政治上保守的な勢力が主導権を握り、資産階級の自由化を外国文学翻訳と一緒に考え込む人が出たゆえ、外国文学の翻訳出版に悪影響がたものと考えられる。当時、外国文学出版にかかわる政策の一つとして1991年7月10日、中国新聞出版署に頒布された「外国文学出版任務査定に関する通知」(《關於核定外国文学出版任務的通知》)がある。同通知には、社会精神文明を維持するため、外国文学の出版権を有する出版社を限定し、「内容が低俗、格調が低い」外国文学の出版を禁止するとある。この「通知」頒布の背景には1991年7月1日、江沢民の「中国共産党創設70周年における講話」がある。その講話によると「指導思想を多元化してはいけない……社会を汚染し且つ反社会主義的なものを氾濫させるのを許さない……民族虚無主義と全面西洋化をも許さない」とある。この講話のすぐ後、7月3日の「人民日報」において「国内外での敵対勢力の和平演変の企みを識別し、打ち砕き、人民に思想上の鋼鉄の長城を築かせる」ため、「毛沢東思想を堅持し、発展させる」という社説が掲げられた。1993年、中国は「世界版權公約」(UCC)と「ベルネ公約」(Berne Convention)に加わった。公約に加入した当初、版權を購買する規制はそれほ

(4) 藤井省三：『村上春樹のなかの中国』、朝日新聞社、2007年7月、163頁。

ど厳密ではなかったため、中国における日本文学の翻訳の質は一段と下がっていった。1996年に至り、「八五計画」が円満に完成され、また1996年から2010年まで「新しい世紀を超える雄大な目標」も確立された。1996年7月1日の「人民日報」社説「世紀を超える大業と中国共産党」によると、「国際的に見れば、両極対抗が多極化の新構造に取って代われ、平和と発展は今の世界の主流である」と評されている。こうして1990年代後半から外国文学の翻訳出版は再興してきたのだ。

90年代以後の日本文学紹介に対して、「翻訳の迅速化」<sup>(5)</sup>という評価があるが、競争激化の状況が出版界にも広がり、一日でも早く翻訳・出版しないと、他の出版社に先手を打たれるという恐れがあり、また、商業主義傾向が顕著となり、売れ行きのいい本を出版するのにせいいっぱいと言われ、翻訳もコストの面を考え、学識のある訳者に依頼するとは限らず、訳者は玉石混交という状態を呈しており、海賊版も一時盛んに出ていた。『失樂園』に関して言えば、中国では既に百万冊出版されたといわれている<sup>(6)</sup>。しかし海賊版が多いという問題もある。

また、先述の通り、経済発展・社会変化に伴う価値観の変化が引き起こした大衆文学に対する注目、即ち新時代における読者層の新たな要求により、日本文学翻訳は力強く再興したのだ。

## 2. 翻訳・紹介の現状

文化芸術出版社は中国大陸で最初に『失樂園』を輸入した出版社である。1998年輸入した当時、三万字ぐらいを「必要な加工・文学化処理を」<sup>(7)</sup>

(5) 胡澎(中国社会科学院日本研究所)：《80年代以来日本文学在中国的译介》(『80年代以来の中国における日本文学の翻訳・紹介』)。

(6) 渡辺淳一(中国版『失樂園』(渡辺淳一が中国語版『失樂園』を書き続ける)、貫通日本文学、[http://book.kantsuu.com/200907/20090723193343\\_153932.shtml](http://book.kantsuu.com/200907/20090723193343_153932.shtml))

(7) 余敬中：《失樂園》谁是盗版(『失樂園』どれが海賊版)、中華讀書報、1998年7月8日。

したものの、「相当危険を冒した」<sup>(8)</sup>と述べている。当時の政治的情勢・社会的背景を顧みると、それは過言ではないことがわかる。また先述のように、1990年代後半になると、外国文学に対する翻訳は勢いよく再興し始めたが、それに伴う様々な問題も起こっている。例を挙げてみると、出版社による作品に関する不適当な宣伝、作品の内容、創作意図と大いに食い違っている作品の紹介<sup>(9)</sup>、また、同一作品の翻訳で、出版社も訳者も異なるにもかかわらず、翻訳内容が全く一致するものまであり<sup>(10)</sup>、下品な訳語の濫用、誤訳などの問題も指摘できよう。

その一方で、中国における渡辺淳一文学の翻訳を論じる際に、渡辺と中国の出版社との間で行った「著作権の争い」を避けることはできない。それは2008年6月より一年余りかかった複雑で大きな係争と言えよう。控訴された出版社は3年間の提携関係を結んだ珠海出版者、10年以上提携関係を結んだ北京文化芸術出版社、また上海文芸出版総社である。北京、上海の二社とは調停協議に達したが、珠海出版者からは67万円の賠償金を獲得したといわれている<sup>(11)</sup>。この三社と争いを行っている間、丁度『紫陽花日記』『熟年革命』『白き狩人』『欲情の作法』などの作品が中国市場に入ってきたということも相当興味深いことである。さらに珠海出版者は『ひとひらの雪』『化粧』とい

う二作でそれぞれ「渡辺側が2（出版）社に依頼した」という名目で渡辺淳一を起訴しているのである<sup>(12)</sup>。そして2008年6月以後中国における渡辺淳一作品の著作権は上海文匯出版社と北京作家出版社に属することになる<sup>(13)</sup>。長い間提携関係を結んだ出版社と手を切り他の出版社と提携関係を結んだというのは渡辺淳一の地位が中国において一段と高くなっていることを反映しているといえよう。

### 三、中国人の「失樂園」に対する受け取り方の変容

#### 1. 読者層の認識

筆者は2009年12月ごろ「中国における日本作家渡辺淳一読書」というテーマでアンケート調査を行った(図表)。対象は日本語専攻の大学三、四年生約25人；日本語専攻の中国各省市教師約60人；非日本語専攻の人は約6人である。有効回答数は91人で、その中で『失樂園』を読んだ経験のある者は54人で、59.3%を占めていた。性別からみると、男性は17人(31.5%)、女性は33人(61.1%)、不明は4人であった。年齢からみると、女性は20代前半が12人、後半は13人、合計25人であるのに対して、30代の女性は6人、40代は2人だった。その一方、男性は20代前半4人、後半4人、合計8人だったが、30代は4人、40代は5人であった。男女とも20代の読者が遙かに多いということが明らかにわかる。

中国における渡辺淳一読書図表

『失樂園』を読んだ男女人数・年齢別

男 性 (17/31.5%)	20代前半/ 後半	30代	40代
	4/4(8)		
女 性 (33/61.1%)	12/13(25)	6	2
男女合計	33/61.1%	10/18.5%	7/13.0%

同アンケートでは『失樂園』と渡辺淳一に関して(図表)

あなたはどうか『失樂園』を思っているのかという質問について

社会価値が文学価値よりも大きいとの答えが一番

(8) 焦雯：《直击渡辺淳一 中国版权保卫战》(渡辺淳一の中国著作権防衛戦に直面)，文化伝播網，2010年01月13日。http://www.ccdy.cn/pubnews/545848/20100113/594290.htm。

(9) 例えば鄭民欽訳《雪花》(珠海出版社2002年10月)「ひとひらの雪」に関しては、「作中の不倫は理想的な要素を有しているが、最初から苦しみから逃れられない運命に定められ、美の壊滅が道徳に背く愛に対する否定なのである」と紹介する。このような評価は渡辺の恋愛観に背き、氏の創作理念を無視するものではなかろうか。

(10) 『マイセンチメンタルジャーニー』においては中国語版「我的，伤感的人生旅程」祝子平訳，上海文芸出版社2001年6月と、「我伤感的人生旅程」竺家荣译，珠海出版社2001年10月の内容がほぼ同じである。藤井省三教授が友人の竺家荣氏に調査した結果，竺氏がその作品を訳さないが，珠海出版社が竺氏の名目を盗用したという。

(11)-(13) 焦雯：《直击渡辺淳一 中国版权保卫战》(渡辺淳一の中国著作権防衛戦に直面)，文化伝播網，2010年01月13日。http://www.ccdy.cn/pubnews/545848/20100113/594290.htm

多く 25 人 (48.1%) であり、二番目はベストセラー小説と答えたのが 14 人 (26.9%) であった。三番目は 8 人が「娯楽性の強い大衆小説」と答えていた。

男女主人公の心中をどう思いますかという質問について

死ななければならぬ理由はないと答えたのが一番多く 22 人 (39.3%) であり、二番目は現実にはこのような感銘深いことはないという答えで 14 人 (25.0%)、三番目は真の愛を達成させるには死ぬしかないという答えで 8 人 (14.3%) という結果だった。

『失楽園』の性描写にどう思いますかという質問について

一番多いのは物語の展開に必要でびっくりするほどではないという答えで、29 人 (52.7%)、次に俗に媚び、それほど細かく多く書かなくてもいいという答えが 13 人 (23.6%) だった。三番目の答えは美しく憧れを引くと答えた人で 6 人 (10.9%) であった。

『失楽園』の主人公の感情をどう思いますかという質問について

理解できるが真似はしないという答えが一番多く 35 人 (66.0%)、次に愛情じゃなく欲望だという答えが 9 人 (17.0%) であった。また真の愛だと答えたのは 5 人 (9.4%) にとどまっていた。

どうして渡辺淳一を読んでいますかという質問については

一番多いのは「氏の描いた不倫は打算的ではなく細かく美しいものである」という答えで、12 人 (21.8%)、次に映画版「失楽園」を見たあと読みたくなったという答えが 11 人 (20.0%) で、三番目は「友人が先生に勧められた」「好奇心に駆られた」「周りの人は読んでいるから」という答えでそれぞれ 9 人 (16.4%) であった。

渡辺淳一の日本文学史上の地位においてどう思いますかという質問について

有名な作家だが日本文学の代表とは言えないという答えが一番多く 29 人 (53.7%) であり、日本

中国における渡辺淳一読書図表  
『失楽園』及び渡辺淳一に対する評価

	一番目	二番目	三番目
失楽園	社会価値が大きい (25/48.1%)	ベストセラー小説 (14/26.9%)	大衆小説 (8/14.3)
心中	死ぬ理由なし (22/39.3%)	感銘深い (14/25.0%)	真愛達成 (8/14.3%)
性描写	物語展開必要 (29/52.7%)	俗に媚る (13/23.6%)	美しい・憧れ (6/10.9%)
男女感情	理解できるが、 真似しない (35/66.0%)	愛情じゃない欲望 (9/17.0%)	真の愛 (5/9.4%)
読書理由	描写が細かく 美しい (12/21.8%)	映画版の影響 (11/20.0%)	周りの影響 (9/16.4%)
作家地位	有名だが代表 とはいえない (29/53.7%)	日本文学を代表 する著名作家 (19/35.2%)	

文学を代表する著名な作家という答えは二番目で 19 人 (35.2%) だった。

このアンケート調査に対して、筆者は二年半前 (2007 年)、2003 年より中国では有名なサイト SINA に連載した『失楽園』(全訳版) に対する読者の評価を調べた。評価数 381 (2007 年 4 月 29 日まで) のうち、有効データは 228 で、具体的に見れば、好意的な評価は 139 人 (61.0%) ; 否定的なものは 73 人 (32.0%) ; 中間的評価は 16 人 (7.0%) であった<sup>(14)</sup>。好意的な評価の内、『失楽園』における性描写の美しさ、愛情の高尚さ・純粋さ、愛と性の融合、心中のあり方などに心を打たれ、共感を示したケースが比較的多いという結果だった。それに反して、否定的な評価では同作が描く愛・性・死に対する嫌悪や批判が大多数を占めていた。例えば「真の愛ではない」「ただの工口小説、芸術って言えるものか」「恥知らず、下品、汚い」「死は愚かで自信がないやり方」「動物的本能しか見られなく、家族に対する責任感全然ない」などが見られた。しかしながら好意的な評価の方が遙かに多いという事実から、1960

(14) <http://comment4.news.sina.com.cn/comment/skin/default.html?channel=dushu&newsid=112-3-18030&face=face3&style=1>.

年代中期から 80 年代中期にかけて 20 年間の「思想閉鎖期」、80 年代中期から 2000 年代初期にわたる「改革開放期」を経て、中国人が性・不倫に関して寛容な態度を取り始めていることが理解できよう。

2009 年末のアンケート調査において 2007 年のネット調査より否定的な評価が遙かに少ない (2007 年は 32.0%, 2009 年は 5.0%) という事実から次の三つのことが推測できよう。一つ目は外国文学を輸入する社会的環境が更に完備されたこと、二つ目は出版側の努力が実り、渡辺は最も多くの中国人読者に読まれ認められるようになったこと、そして三つ目は調査対象から言えば日本語を専攻としている読者はそうではない読者より日本文学に対する理解が深いということである。

## 2. 研究層の評価

渡辺淳一の作品が初めて中国に紹介されたのは 1984 年<sup>(15)</sup>だったが、その後、中国の読者に親しまれ、研究者に注目され始めたのは『失樂園』が中国に入り、ブームを起こした 1998 年以後のことである。作品がどんどん訳され、読者層が一層広がってくるにつれ、学者もそれに目を向けるようになっただけでなく、前述のように渡辺文学を大江健三郎、村上春樹と同次元のものと考えようになり、更には「現代日本文学の師匠……さすがに厳肅的な作家だけあって」<sup>(16)</sup> という評価まで現れた。また 2007 年、CCTV の名番組『岩松看日本』ではインタビューを受け、さらには 2008 年胡錦濤主席が訪日した際には、昼食会に招かれたということからも、中国では渡辺淳一は日本文学だけでなく、日本のシンボルだと思われることがわかる。

このような状況に至った要因として注目すべきことは、中国における渡辺淳一研究には最初の段

階において幾つかの問題があったということである。

一つには当時の研究者の多くが、基礎的な作業に手を抜く様な傾向があり、自ら資料を調べるのではなく、他人の資料を確認しないまま引用したりしていたことが挙げられる。例えば、映画『失樂園』に関する二つの論文がそれぞれ「同じ題名の映画が 1997 年カンヌ映画祭に金賞を受賞した」<sup>(17)</sup>「1997 年、同じ題名の映画が国際カンヌ映画祭金賞を受賞した」<sup>(18)</sup> と述べていたり、別の『失樂園』を論じた論文はヒロイン「凜子」の名前を「凌子」にし、また「主人公の二人は各々配偶者と婚姻関係を解除した後…」<sup>(19)</sup> など、原作と大きく異なる作品紹介を行ったりしている。

もう一つは研究の最初の段階では渡辺淳一文学に対する認識が明確になっていない上に、誤読や位置づけ上に間違いを犯した、ということである。『失樂園』という作品は社会倫理道徳を守り、不倫を批判・否定する作品<sup>(20), (21)</sup>だと論じたものもある。作者の創作意図に関しては「そのあげく、久木と凜子との二人は悲劇的運命から逃れられないで心中するというプロットから見ると、作者は不倫に批判的な態度を持っていることがわかる。それによってこの小説を通俗文学の泥沼から救い出し、通俗文学よりもっと深い内容と教訓的意味を付与する…経済の発展、道徳感の喪失に伴う産物は『愛人』という言葉である」<sup>(22)</sup> と、『失樂園』を道徳書として評価する論文さえ見られるのである。

(15) この年、陳喜儒が渡辺淳一の『光と影』を翻訳した。それを「日本文学」(1984 年第 2 期) という学術誌に載せた。

(16) 李琴. 《生命本体与伦理道德的尷尬》(生命本体与伦理道德の葛藤), 2006 年中国優秀修士學位論文全文教拋庫。

(17) 丁燕:《重寻生命的价值》(『生命の価値を探しなおす』), 文教資料, 2005 年第 20 期。

(18) 林晓青:《“和与不同”——劳伦斯与渡辺淳一叙事艺术的比较研究》(『和して同せず——ローレンス (David Herbert Lawrence, 1885~1930) と渡辺淳一における語り方の比較研究』) (南京師範大学修士論文) 2005 年。

(19) 陳艷麗:《一曲人类追求的悲歌》(『人間が追求する一曲の哀歌』), 廊坊師專學報, 2000 年第 4 期。

(20) 黄芳. 一段婚外情的悲剧——评渡辺淳一的《失乐园》(一つの不倫の悲劇——渡辺淳一の『失樂園』について), 西安外国語学院學報 2000 年 3 月。

(21) 陳艷麗:《一曲人类追求的悲歌》(『人間が追求する一曲の哀歌』), 廊坊師專學報, 2000 年第 4 期。

(22) 黄芳: 一段婚外情的悲剧——评渡辺淳一的《失乐园》(一つの不倫の悲劇——渡辺淳一の『失樂園』について), 西安外国語学院學報 2000 年 3 月。

要するに、渡辺淳一は社会倫理道徳を守り、不倫に反対するという間違った位置づけを前提に中国文化市場に浸透したと言えよう。出版側における市場利益の配慮、そして研究層における文学に対する功利性の期待、根深い定式思惟などが渡辺文学に対する深い次元の考察・研究を妨げたと言わざるを得ない。

出版側から見ると、伝統的な実力派文学と同じくベストセラー小説も経済面においては利益をもたらすものである。まして恋愛文学の内でベストセラーから無理矢理に経典書に昇華された例も少なくない。それゆえに極端に言えば、出版側が読者の好みに合わせるというよりむしろ流行を作り、八方手を尽くし、作品の価値を誇張的に引き上げようと努力して読者の購買欲を刺激しているのだ。

研究層に関していえば、伝統を堅く守る文学研究者は騒がしい市場に左右されず、中国図書市場に進出してきた渡辺淳一文学に対しては傍観したり鼻であしらったりする態度をとっている。数千年の倫理道徳の浸入を受けた故に、性は俗物、精神上の崇高・純粹と比較すると、肉体的な歓楽を貪るのは意志薄弱、低級な趣味にすぎないと思われがちである。文学は「人学」と公認されているものの、人間の百八煩惱の一を描く性文学は低俗の列に入れられており、性文学を研究することも実際的な価値なし、遣り甲斐なしの崇高ではない行為と思われる。それに加えて学術誌に恋愛文学に関する論文がアクセプトされるのは最も難しいことである。こうなると、「伝統学者」が渡辺淳一文学を研究しないのは当然のことと言える。

それに反して流行に敏感、そして新しい事物を受け入れやすい若い学者は市場に目を向け、読者の視線に引かれやすい傾向がある。渡辺文学における異質的な成分に目を引かれる一方で、伝統文学批評観の所謂「文はもって道を載す」も無視することができない。文学に対する功利性要求は現代社会では希薄になりつつあるが、その影はまだ残っている。それに合わせるため、娯楽小説であっても伝統道徳を発揚させるという期待が付与され

る。それゆえ、現在の学术界、出版界では文学および文学評論に対して「主題を昇華させる」「道徳説教」というようなイデオロギー上の期待が生じたのだ。このような情勢の下で、若い学者が渡辺文学を「道徳説教小説」と看做するのは学界の主流イデオロギーに対する妥協とも、態度上の曖昧さとも考えられるのである。

新しい世紀の幕が明け、学者たちは渡辺淳一文学を正視し始め、氏の性描写の悲しさ・美しさを賛美し<sup>23, 24, 25</sup>、氏の描いた「愛と死」に潜んだ深い意味に注目し<sup>26</sup>、氏の描いた恋愛の無功利性・人性と道徳の衝突を認め<sup>27, 28</sup>、そして人生価値の強調と肯定に共感をしめし始めた<sup>29</sup>。批評主体が同じ対象に対して時期によって認知と評価基準を変更するのは認識の一般的な原理（もしくは規則）に合致する。それと同時に改革開放が展開するにつれ、思想・文化面において人々の道徳観・価値観も変化しているということがわかる。またその変化は審美意識の変化ももたらした。渡辺淳一文学を正視する学術的環境は改革開放の展開にしたがって形成されてきた。その効果の一つは学者たちが無理矢理渡辺文学を主流イデオロギーに合わせる努力を必要としなくなったことにある。

23) 符新華. 《渡辺淳一小説思想特質論》(渡辺淳一小説思想特質論), 湘潭大学文學院修士學位論文, 2005年。

24) 閔致康. 《回到人类的原点——论渡辺淳一小説の性愛観》(人類の原点に戻る——渡辺淳一の小説における性愛観をめぐって), 南京師範大学文學院修士學位論文, 2006年。

25) 李琴. 《生命本体与伦理道徳の尷尬》(生命本体与伦理道徳の葛藤), 陝西師範大学修士學位論文, 2006年。

26) 楊仲. 白雪覆盖下的幽暗和壮丽——渡辺淳一小説の死亡美学初探(白雪に覆われた闇と壮丽——渡辺淳一小説における死亡美学をめぐって), 《思茅師範高等専科学校学报》, 2003年第1期。

27) 馮羽. 作为异文化现象的渡辺文学——兼论日本文学中的“女”与“自然”(異文化現象としての渡辺淳一文学——日本文学における「女」と「自然」も論じて), 《南京曉庄学院学报》, 2003年第3期。

28) 林蓓蓓. 道徳と人性的の衝突——论《失樂園》叙事的二重性(道徳と人性的の衝突——『失樂園』における語りの二重性), 《新疆職業大学学报》2005年第1期。

29) 丁燕. 重寻生命的价值——读渡辺淳一の《失樂園》(生命的価値を探しなおす——渡辺淳一の「失樂園」を読む), 《文教資料》, 2005年第20期。

#### 四、まとめ

読者層の渡辺淳一文学に対する理解・許容はグローバル化の情勢の下で外来文化を吸収する寛容な態度及び審美意識の成熟を示した。また、研究層において若い学者の渡辺文学に対する絶え間ない研究は学術視野の開放と理性を示した。しかしながら、渡辺文学には多少なりとも女性蔑視の傾向が見られると思うが、このことに関して未だに中国の学者には十分に認識されていない、という現状も見られる。これは多分に『失樂園』という作品には女子蔑視の思想が希薄であり、その上、中国人の読者と研究者は渡辺文学といえば『失樂園』としか考えない傾向が強いために、未だにこのことに気づいていないと考えられる。筆者の学位論文ではこの件に関して論じたが、まだまだ研究する余地が大きいのではないかと考えている。

附記：本稿は2010年2月山形大学人文学部主催のシンポジウム「共振する東アジア—現代東アジアの文学交流—」で発表した内容に加筆したものである。山形大学人文学部の先生方に感謝の意を表したい。

## 《失乐园》是怎么被阅读的——中国的渡辺淳一文学接受现状

于 桂玲

摘要：

本论文在一定的调查数据的基础上，对中国接受渡辺淳一文学的社会背景，文学背景，中国读者，研究者对《失乐园》的阅读和评价的变化等方面进行了论述。指出《失乐园》是在错误定位的前提下进入中国市场的，年轻学者对《失乐园》的认识和研究经历了一个从误读到正确理解，客观评价的过程。目前在中国，渡辺淳一文学研究上存在的问题是：一，传统学者仍然没有对其产生足够的兴趣和重视；二，渡辺文学中蔑视女性的思想还很少有学者论及。